

3) 発見経過から見たがんの罹患

全部位の発見経緯を見ると、「その他・不明」で発見された割合（57.7%）が圧倒的に高く、「他疾患の経過観察中」（29.4%）、がん検診（8.2%）、健診人間ドック（4.6%）を合わせてもそれに満たなかった。

女性では、乳がんと子宮頸がんについて、がん検診（26.7%、28.1%）での発見が、「他疾患の経過観察中」での発見（8.2%、7.9%）よりも多かった。

男性では、前立腺がんについて、がん検診（20.3%）での発見が、他部位のがんよりも割合が高かった。

*表4-A参照

